

## 校異源氏物語・すゑつむ花

思へともなをあかさりしゆふかほの露にをくれし心地をとし月ふれとおほしわすれすこゝもかしこもうちとけぬかきりのけしきはみ心ふかきかたの御いとましさにけちかくうちとけたりしあはれに在る物なう恋しくおもほえ給ふいかてことゝしきおほえはなくいとらうたけならむ人のつゝましき事なからむみつけてしかなとこりすまにおほしわたれはすこしゆへつきてきこゆるわたりは御みゝとゝめ給はぬくまなきにさてもやとおほしよるはかりのけはひあるあたりにこそひとくたりをもほのめかし給ふめるになひきゝこえすもてはなれたるはおさゝあるましきそいとめなれたるやつれなう心つよきはたとしへなうなさけをくるゝまめやかさなどあまり物のほとしらぬやうにさてしもすくしはてすなこりなくつをれてなをゝしきかたにさたまりなとするもあれはの給ひさしつるもおほかりけるかのうつせみをものゝおりゝにはねたうおほしいつおきの葉もさりぬへきかせのたよりある時はおとろかし給ふおりもあるへしほかけのみたれたりしさまはまたさやうにてもみまほしくおほすおほかたなこりなきものわすれをそえたまはさりける左衛門のめのとゝて大弐のさしつきにおほいたるかむすめたいふの命婦とてうちにさふらふわかむとほりの兵部のたいふなるむすめなりけりいといたういろこのめるわか人にてありけるを君もめしつかひなとし給はゝはちくせむのかみのめにてくたりにければちゝ君のもとをさとにてゆきかよふ故ひたちのみこのすゑにまうけていみしうかなしうかしつき給ひし御むすめ心ほそくてのこりゐたるをものゝついてにかたりきこえければあはれのことやとて御心とゝめてとひきゝ給ふ心はへかたちなとふかきかたはえしり侍らすかいひそめ人うとうもてなし給へはさへきよひなとものこしにてそかたらひ侍るきむをそなつかしきかたらひ人とおもへるときこゆればみつのともにていまひとくさやうたてあらむとてわれにきかせよちゝみこのさやうのかたにいとよしつきてものし給ふければをしなへてのてにはあらしとなむおもふとの給へはさやうにきこしめすはかりにはあらずや侍らむといへと御心とまるはかりきこえなすをいたうけしきはましやこのころのおほる月夜にしひひもののせむまかてよとの給へはわつらはしとおもへとうちわたりものとやかな

るはるのつれ／＼にまかてぬち、の大輔の君はほかにそすみけるこゝには時  
／＼そかよひける命婦はまゝは、のあたりはすみもつかすひめ君の御あたりを  
むつひてこゝにはくるなりけりのたまひしものゝねすむへき夜のさまにも侍ら  
におはしたりいとかたはらいたきわさかなものゝねすむへき夜のさまにも侍ら  
さめるにときこゆれとなをあなたにわたりてたゝひとこゑもよをしきこえよ  
むなしくてかへらむかねたかるへきをとの給へはうちとけたるすみかにすへた  
てまつりてうしろめたうかたしけなしとおもへとしむてむにまいりたればまた  
かうしもさなからむめのかおかしきをみいたしてもものし給よきおりかなと思ひ  
て御ことのねいかにまさり侍らむと思給へらるゝよのけしきにさそはれ侍りて  
なむ心あはたゝしきいていりにえうけたまはらぬこそくちをしけれといへはき  
ゝしる人こそあなれもゝしきにゆきかう人のきくはかりやはとめしよするも  
あいなういかゝきゝ給はむとむねつふるほのかにかきならし給ふおかしうきこ  
ゆなにはかりふかきてならねもののゝねからのすちことなるものなれはきゝに  
くゝもおほされすいといたうあれわたりてさひしき所にさはかりの人のふるめ  
かしうところせくかしつきすへたりけむなこりなくいかにおもほしのこす事な  
からむかやうの所にこそはむかしものかたりにもあはれなる事ともゝありけれ  
なと思ひつつけても物やいひよらましとおほせとうちつけにやおほさむと心は  
つかしくてやすらひ給命婦かとあるものにていたうみゝならさせたまつらし  
と思ひければくもりかちに侍るめりまらうとのこむと侍りつるいとひかほにも  
こそいま心のとかにをみかうしまいりなむとていたうもそゝのかさてかへりた  
れはなか／＼なるほとにてもやみぬるかなものきゝわくほとにもあらてねたう  
との給ふけしきおかしとおほしたりおなしくはけちかきほとのとちきゝせさせ  
よとの給へと心にくゝてとおもへはいてやいとかなるありさまに思ひきえ  
て心くるしけにものし給ふめるをうしろめたきさまにやといへはけにさもある  
事にはかに我も人もうちとけてかたらふへき人のきはゝきはとこそあれなとあ  
はれにおほさるゝ人の御ほとなれはなをさやうのけしきをほめかせとかたら  
ひ給ふまたきり給へるかたやあらむいとしのひてかへりたまふうへのために  
おはしますともてなやみきこえさせ給ふこそおかしうおもふ給へらるゝおり  
／＼侍れかやうの御やつれすかたをいかてかは御らむしつけむときこゆれはた  
ちかへりうちわらひてこと人のいはむやうにとかなあらはされそこれをあた  
／＼しきふるまひといはゝ女のありさまくるしからむとのたまへはあまりいろ  
めいたりとおほしており／＼かうの給ふをはつかしと思ひてものもいはすしむ

殿のかたに人のけはひきくやうもやとおほしてやをらたちのき給ふすいかいの  
たゝすこしおれのこりたるかくれのかたにたちより給ふにもとよりたてるおと  
こありけりたれならむ心かけたるすきものありけりとおほしてかけにつきてた  
ちかくれ給へはとうの中將なりけりこのゆふつかたうちよりもろともにまかて  
給ひけるやかて大殿にもよらす二条の院にもあらてひきわかれ給けるをいつち  
ならむとたゝならてわれもゆくかたあれとあとにつきてうかゝひけりあやしき  
むまにかりきぬすかたのないかしろにてきけれはえしりたまはぬにさすかにか  
うことかたにいりたまひぬれは心もえす思ひけるほにものゝねにきゝついて  
たてるにかへりやいて給ふとしたまつなりけりきみはたれともえみわき給はて  
われとしられしとぬきあしにあゆみ給ふにふとよりてふりすてさせ給へるつら  
さに御をくりつかうまつりつるは

もろともにおほうち山はいてつれといるかたみせぬいさよひのつきとうら  
むるもねたけれとこの君とみ給ふすこしおかしうなりぬ人のおもひよらぬ事よ  
とにくむゝ

さとわかぬかけをはみれとゆく月のいるさの山をたれかたつぬるかうした  
ひありかはいかにせさせ給はむときこえ給まことはかやうの御ありきにはすい  
しむからこそはかはかしきこともあるへけれをくらさせ給はてこそあらめやつ  
れたる御ありきはかるゝしき事もいてきなどをしかへしいさめたてまつるか  
うのみみつけらるゝをねたしとおほせとかのなてしこはえたつねしらぬををも  
きこうに御心のうちにおほしいつをのゝちぎれるかたにもあまえてえゆきわ  
かれ給はすひとつくるまにのりて月のおかしきほとにくもかくれたるみちのほ  
とふえふきあはせて大殿におはしぬさきなどもはせ給はすしのひいりて人み  
ぬらうに御なをしもめしてきかへ給つれなういまくるやうにて御ふえともふ  
きすさひておはすれはおとゝれいのきゝすくし給はてこまふえとりいて給へり  
いと上すにおはすれはいとおもしろうふき給御ことめしてうちにもこのかたに  
心えたる人ゝにひかせ給ふ中つかさのきみわさとひはゝひけと頭の君心かけ  
たるをもてはなれてたゝこのたまさかなる御けしきのなつかしきをはえそむき  
きこえぬにをのつかからかくれなくて大宮などもよろしからすおほしなりたれは  
ものおもはしくはしたなきこゝちしてすさましけによりふしたりたえてみたて  
まつらぬ所にかけはなれなむもさすかに心ほそおもひみたれたり君たちはあ  
りつるきむのねをおほしいてゝあはれけなりつるすまゐのさまなともやうかへ  
ておかしう思ひつゝけあらまし事にいとおかしうらうたき人のさてとし月をか

さねるたらむときみそめていみしう心くるしくは人にもゝてさはかるはかりや  
わか心もさまあしからむなとさへ中将は思ひけりこの君のかうけしきはみあり  
き給をまさにまてはすくし給ひてむやとなまねたうあやうかりけりそのゝちこ  
なたかなたよりふみなとやり給へしいつれもかへり事みえすおほつかなく心や  
ましきにあまりうたてもあるかなさやうなるすまひする人はもの思ひしりたる  
けしきはかなき木くさそらのけしきにつけてもとりなしなとして心はせをしは  
からるゝおりくあらむこそあはれなるへけれをもしとてもいとかうあまりう  
もれたらむは心つきなくわるひたりと中将はまいて心いられしけりれのへた  
てきこえ給はぬこゝろにてしかくのかへり事はみ給や心みにかすめたりしこ  
そはしたなくてやみにしかとうれふれはされはよいひよりにけるをやとほくゝ  
まれていさみむとしも思はねはにやみるとしもなしといらへ給を人わきしける  
と思ふにいとねたし君はふかうしもおもはぬ事のかうなさけなきをすさましく  
おもひなり給にしかとかうこの中将のいひありきけるをことおほくいひなれた  
らむ方にそなひかむかししたりかほにてもとの事をおもひはなちたらむけしき  
こそうれはしかるへけれとおほして命婦をまめやかにかたらひ給おほつかなく  
もてはなれたる御けしきなむいと心うきすきくしきかたにうたかひよせ給に  
こそあらめさりとみしかき心はへつかはぬものを人の心のとやかなる事なく  
ておもはずにのみあるになむをのつからわかあやまちにもなりぬへき心のとか  
にておやはらからのもてあつかひうらむるもなう心やすからむ人はなかくな  
むらうたかるへきをとの給へはいてやさやうにおかしきかたの御かさやとり  
はえしもやとつきなけにこそみえ侍れひとへにもつゝみしひきいりたるかた  
はしもありかたうものし給ふ人になむとみるありさまかたりきこゆらうくし  
うかとめきたる心はなきなめりいとこめかしうおほとかならむこそらうたくは  
あるへけれとおほしわすれすの給ふわらはやみにわつらひ給人しれぬものをも  
ひのまきれも御心のいとまなきやうにてはるなつすきぬ秋のころほひしつかに  
おほしつゝけてかのきぬたのをともみゝにつきてきゝにくかりしさへ恋しうを  
ほしいてらるゝまゝにひたちの宮にはしはくきこえ給へとなをおほつかなう  
のみあれはよつかす心やましうまけてはやましの御心さへそひて命婦をせめ給  
いかなるやうそいとかゝる事こそまたしらねといものしとおもひてのたまへ  
はいとおしと思ひてもてはなれてにけなき御事とおもむけ侍らすたゝおほか  
たの御ものつゝみのわりなきにてをえさしいて給はぬとなむみ給ふるときこゆ  
れはそれこそはよつかぬ事なれものおもひしるましきほとひとり身をえ心にま

かせぬほとこそ事はりなれなに事も思しつまり給へらむと思ふこそそこはかとなくつれ／＼に心ほそうのみおほゆるをおなし心にいらへ給はむはねかひかなふ心ちなむすへきなにやかやとよつけるすちならてそのあれたるすのこにたゝすまゝほしきなりいとうたて心えぬ心ちするをかの御ゆるしなくともたはかれかし心いられしうたであるもてなしにはよもあらしなとかたらひ給ふなを世にある人のありさまをおほかたなるやうにてきゝあつめみゝととめ給くせのつき給へるをさう／＼しきよひゐなとはかなきついでにさる人こそとはかりきえいてたりしにかくわさとかましうのたまひわたれはなまわつらはしくをむな君の御ありさまもよつかはしくよしめきなともあらぬを中／＼なるみちひきにいともしき事やみえむなむと思ひけれと君のかうまめやかにの給ふにきゝいれさらむもひか／＼しかるへしちゝみこおはしけるおりにたにふりにたるあたりとてをとなくひきこゆる人もなかりけるをましていまはぬさちはくる人もあとたえたるにかくよにめつらしき御けはひのもりにほひくるをはなま女はらなどもゑみまけてなをきこえ給へとそゝのかしたてまつれとあさましうものつゝみしたまふ心にてひたふるにみもいれ給はぬなりけり命婦はさらはさりぬへからんおりにものこしにきこえ給はむほと御心につかすはさてもやみねかし又さるへきにてかりにもおはしかよはむをとかめ給へき人なしなどあためきたるはやり心はうち思ひてちゝきみにもかゝる事なともいはさりけり八月廿日よひすくるまでまたるゝ月の心もとなきにほしのひかりはかりさやけくまつのこすゑふく風のをと心ほそくていにしへの事かたりいてゝうちなきなし給いとよきおりかなと思ひて御せうそやきこえつらむれいのいとしのひておはしたり月やう／＼いてゝあれたるまかきのほうとましくうちなかめ給ふにきむそゝのかされてほのかにかきならし給ほとけしうはあらすすこしけちかういまめきたるけをつけはやとそみたれたる心には心もとなくおもひいたる人めしなき所なれは心やすくいらたまふ命婦をよはせ給いましもおとろきかほにいとかたはらいたきわさかなしか／＼こそおはしましたなれつねにかううらみきこえ給ふを心かなはぬよしをのみいなきこえ侍れはみつからことほりもきこえしらせむとの給ひわたるなりいかゝきこえかへさむなみ／＼のたはやすき御ふるまひならねは心くるしきをものこしにてきこえ給はむ事きこしめせといへはいとはつかしと思て人にもものきこえむやうもしらぬをとておくさまへゑさりいり給さまいとうゑ／＼しけなりうちわらひていとわか／＼しうおはしますこそ心くるしけれかきりなき人もおやなどおはしてあつかひうしろみきこえ給ふほとこそわか

ひたまふもことはりなれかはかり心ほそき御ありさまになをよをつきせすおほしは、かるはつきなうこそとをしへきこゆさすかに人のいふ事はつようもないひぬ御心にていらへきこえてた、きけとあらはかうしなとさしてはありなむとの給すのこなとはひむなう侍りなむをしたちてあはくしき御心などはよものといとよくいひなしてふたまのきはなるさうしてつからいとおよくさして御しとねうちをきひきつくろふいとつ、ましけにおほしたれとかやうの人にもいふらむ心はへなとも夢にしり給はさりければ命婦のかういふをあるようこそはと思ひてものし給めのとたつおい人などはさうしにいりふしてゆふまとひしたるほとなりわかき人三人あるはよにめてられ給ふ御ありさまをゆかしきものに思ひきこえて心けさうしあへりよろしき御そたまつりかへつくろひきこゆれはさうしみはなにの心けさうもなくておはすおとこはいとつきせぬ御さまをうちしのひよういし給へる御けはひいみしうなまめきてみしらむ人にこそみせめはへあるましきわたりをあないとおしと命婦はおもへとた、おほとかにものし給ふをそうしろやすうさしすきたる事はみえたてまつり給はしとおもひけるわかつねにせめられたてまつるつみさりに心くるしき人の御もの思ひやいてこむなとやすからす思ひるたり君は人の御ほとをおほせはされくつかへるいまやうのよしはみよりはこよなうおくゆかしうとおほさるゝにいたうそゝのかされてあさりより給へるけはひしのひやかにえひのかいとなつかしうかほりいて、おほとかなるをされはよとおほすとしころ思ひわたるさまなといとよくの給つゝくれとましてちかき御いらへはたえてなしわりなのわさやとうちなけき給ふ

いくそたひ君かし、まにまけぬらんものないひそといはぬたのみにのたまひもすて、よかしたまたすきくるしとの給ふ女君の御めのとこしうとてはやりかなるわか人いと心もとなうかたはらいたしと思ひてさしよりてきこゆ

かねつきてとちめむことはさすかにてこたえまうきそかつはあやなきいとわかひたるこゑのことにおもりかならぬを人つてにはあらぬやうにきこえなせはほとよりはあまえてとき、給へとめつらしきかなかくちふたかるわさかな

いはぬをもいふにまさるとしりなからをしこめたるはくるしかりけりなにかやとはかなき事なれとおかしきさまにもまめやかにもの給へとなにのかひなしとかゝるもさまはりおもふかたことにものし給ふ人にやとねたくてやをらをしあけていりたまひにけり命婦あなうたてたゆめ給へるといとおしけれ

はしらすかほにてわかたへいにけりこのわか人とはたよにたくひなき御ありさまのとき、につみゆるしきこえておとろしうもなけれすた、おもひもよらすにはかにてさる御心もなきをそ思ひけるさうしみはた、われにもあらずはつかしくつ、ましきよりほかの事またなければいまはかゝるそあはれるかしまたよなれぬ人うちかしつかれたるとみゆるし給ふものから心えすなまいとおしとおほゆる御さまなりな事につけてかは御心のとまらむうちうめかれてよふかういて給ひぬ命婦はいかならむとめさめてき、ふせりけれとしりかほならしとて御をくりにともこはつくらす君もやをらしのひていて給にけり二条の院におはしてうちふし給ひてもなを思ふにかなひかたきよにこそとおほしつ、けてかるらかなれぬ人の御ほとを心くるしとおほしける思ひみたれておはするに頭中将おはしてこよなき御あさいかなゆへあらむかしとこそ思ひ給へらるれといへはおきあかり給て心やすきひとりねのどこにてゆるひにけりやうちよりかとの給へはしかまかて侍るまゝなりすさく院の行幸けふなむかく人まひ人さためらるへきよしよへうけたまはりしをおと、にもつたへ申さむとてなむまかて侍るやかてかへりまいりぬへう侍りといそかしけなれはさらはもろともにとて御かゆこはいひめしてまらうともまいり給てひきつゝけたれとひとつにたてまつりてなをいとねふたけなりとかめいてつゝ、かくい給事おほかりとそうらみきこえ給ふこともおほくさためらるる日にてうちにさふらひくらし給つかしこにはふみをたにといとをしくおほしいて、ゆふつかたそありける雨ふりいて、所せくもあるにかさやとりせむとはたおほされすやありけむかしこにはまつほとすきて命婦もいといとをしき御さまかなと心うくおもひけりさうしみは御心のうちにはつかしう思ひ給てけさの御ふみのくれぬれとなかくととも思ひわき給はさりけり

ゆふきりのはる、けしきもまたみぬにいふせさそふるよひのあめかなくもままちいてむほといかに心もとなうとありおはしますましき御けしきを人くむねつふれておもへとなをきこえさせ給へとそ、のかしあへれといと、おもひみたれ給へるほとにてえかたのやうにもつゝけたまはねはよふけぬとてしうそれいのをしへきこゆる

はれぬよの月まつさとおもひやれおなし心になかめせすともくちくにせめられてむらさきのかみのとしへにければはひをくれふるめいたるにてはさすかにもしつよう中さたのすちにてかみしもひとしくかい給へりみるかひなううちをき給ふいかにをもふらんと思ひやるもやすからすかゝることをくやしな

とはいふにやあらむさりとていかゝはせむわれはさりともし心なくみはてゝむとおほしなす御心をしらねはかしこにはいみしうそなけい給けるおとゝ夜にいたりてまかて給にひかれたてまつりて大殿にをはしましぬ行幸のことをけふありとおもほして君たちあつまりての給ひをのゝまひともならひ給ふをそのころの事にてすきゆくものゝねともつねよりもみゝかしかましくてかたゝゝいとみつゝれぬの御あそひならす大ひちりきさくはちのふえなどのおほこゑをふきあげつゝたいこをさへかうらむのもとにまろはしよせてつからうちならしあそひおはさふす御いとまなきやうにてせちにおほす所はかりにこそぬすまはれ給へれかのわたりにはいとをほつかなくてあきくれはてぬなをたのみこしかひなくてすきゆく行幸ちかくなりてしかくなとのゝしるころそ命婦はまいるいかにそなととひたまいていとをしとはおほしたりありさまきこえていかうもてはなれたる御心はえはみたまふる人さへ心くるしくななきぬはかりおもへり心にくゝもてなしてやみなむとおもへりし事をくたいてける心もなくこの人のおもふらむをさへおほすさうしみのものはいはおほしうつもれ給らむさまおもひやり給ふもいとおしければいとまなきほどそやわりなしとうちなけい給てものおもひしらぬやうなる心さまをこらさむと思ふそかしとほゝゑみ給へるわかううつくしけなれはわれもうちゑまるゝ心ちしてわりなの人にうらみられ給ふ御よはひやおもひやりすくなう御心のまゝならむもことほりとおもふこの御いそぎのほとすくしてそ時ゝおはしけるかのむらさきのゆかりたつねとり給ひてそのうつくしみに心いり給ひて六条わたりにたにかれまさりたまふめれはましてあれたるやとはあはれにおほしをこたらすなからものうきそわりなかりけると所せき御ものはちをみあらはさむの御心もことになうてすきゆくをまたうちかへしみまさりするやうもありかしてさくりのたととしきにあやしう心えぬ事もあるにやみてしかなとおもほせとけさやかにとりなさむもまはゆしうちとけたるよひぬのほとやをらいいり給ひてかうしのはさまよりみ給ひけりされとみつからはみえ給へくもあらすき丁などいたくそこなはれたるものからとしへにけるたちとかはらすおしやりなとみたれねは心もとなくてこたち四五人ゑたり御たいひそくやうのもろこしのものなれとひとわろきになにのくさはひもなくあはれけなるまかてゝ人ゝくふすみのまはかりにそいとさむけなる女はらしろききぬのいひしらすすゝけたるにきたなけるしひらひきゆひつけたるこしつきかたくなしけなりさすかにくしをしたれてさしたるひたいつきないけうはう内侍所のほとにかゝるものともあるはやとおかしかけても人のあたりに



ちかうふるまふものとしりたまはさりけりあはれさもさむきとしかないのち  
なかければかゝる世にもあふものなりけりとてうちなくもありこ宮をはしまし  
し世をなとてからしと思ひけむかくたのみなくともすぐるものなりけりとてと  
ひたちぬへくふるふもありさま／＼に人わるき事ともをうれへあへるをき、給  
もかたはらいたければたちのきてたゝいまおはするやうにてうちたゝき給ふそ  
ゝやなどいひて火とりなをしかうしはなちていれたてまつるしゝうはさい院に  
まいりかよふわか人にてこのころはなかりけりいよくあやしうひなひたるか  
きりにてみならはぬ心ちそするいとゝうれふなりつるゆきかきたれいみしうふ  
りけり空のけしきはけしうかせふきあれておほとなふらきえにけるをともしつ  
くる人もなしかのものをそはれしおりおほしいてられてあれたるさまはおと  
らさめるをほとんせはう人けのすこしあるなどになくさめたれとすこううたて  
いさとき心ちする夜のさまなりおかしうもあはれにもやうかへて心とまりぬへ  
きありさまをいとむれすくよかにてなにはへなきをそくちをしうおほすか  
らうしてあけぬるけしきなれはかうしてつからあけ給てまへのせむさいのゆき  
をみたまふふみあけたるあともなくはる／＼とあれわたりていみしうさひしけ  
なるにふりいてゝゆかむ事もあはれにておかしきほどの空もみ給へつきせぬ御  
心のへたてこそわりなけれとうらみきこえ給ふまたほのくらけれとゆきのひか  
りにいとゝきよらにわかうみえ給ふをおい人ともゑみさかへてみたてまつるは  
やいてさせ給へあちきなし心うつくしきこそなとをしへきこゆればさすがに人  
のきこゆる事をえいなひ給はぬ御心にてとかうひきつくろいてゑさりいて給へ  
りみぬやうにてとのかたをななめ給へれとしりめはたゝならすいかにそうちと  
けまさりのいさゝかもあらはうれしからむとおほすもあなかななる御心なりや  
まつゐたけのたかくをせなかにみえ給ふにされはよとむねつふれぬうちつきて  
あなかたわとみゆるものはななりけりふとめそとまるふけむほさつのゝりも  
のとおほゆあさましうたかうのひらかにさきのかたすこしたりていろつきたる  
事ことのほかにうたてありいろはゆきはつかしくしろうてさおにひたひつきこ  
よなうはれたるになをしもかちなるおもやうはおほかたおとろしうなか  
きなるへしやせたまへる事いとをしけにさらほてかたのほとなどはいたけな  
るまてきぬのうへまてみゆなににのこりなうみあらはしつらむと思ものからめ  
つらしきさまのしたれはさすがにうちみやられ給ふかしらつきかみのかゝりは  
しもうつくしけにめてたしとおもひきこゆる人／＼にもおさ／＼おとるましう  
うちきのすそにたまりてひかれたるほと一尺はかりあまりたらむとみゆきたま

へるものともをさへいひたつるものいひさかなきやうなれとむかしものかた  
りにも人の御さうそくをこそまついひためれゆるしゐるのわりなううはしらみ  
たるひとかさねなこりなうくろきうちきかさねてうはきにはふるきのかはきぬ  
いときよらにかうはしきをき給へりこたいのゆへつきたる御さうそくなれとな  
をわかやかなる女の御よそひにはにけなうおとろおとろしき事いともてはやさ  
れたりされとけにこのかはなうてはたさむからましとみゆる御かほさまなるを  
心くるしとみ給ふなに事もいはれ給はすわれさへくちとちたる心ちしたまへと  
れいのしゝまも心みむととかうきこえ給ふにいたうはちらひてくちおほひした  
まへるさへひなひふるめかしうことごとしくきしき官のねりいてたるひちもち  
おほえてさすかにうちゑみ給へるけしきはしたなうすゝろひたりいとをしくあ  
はれにていとゝいそきいて給ふたのもしき人なき御ありさまをみそめたる人に  
はうとからす思ひむつひ給はむこそほいある心ちすへけれゆるしなき御けしき  
なれはつらうなことつけて

あさひさすのきのたるひはとけなからなとかつららのむすほゝるらむとの  
給へとたたむくとうちらひていとくちをもけなるもいとおしけれはいて給ひ  
ぬ御車よせたる中もむのいいたうゆかみよろほひてよめにこそしるきながら  
もよろつかくろへたる事おほかりけれいとあはれにさひしくあれまとへるにま  
つのゆきのみあたゝかけにふりつめる山さとの心ちしてもあはれなるをかの  
人ゝのいひしむくらのかとはかうやうなる所なりけむかしけに心くるしくら  
うたけならん人をこゝにすゑてうしろめたう恋しとおもはゝやあるましきもの  
おもひはそれにまきれなむかしとおもふやうなるすみかにあはぬ御ありさまは  
とるへきかたなしと思ひなからわれならぬ人はましてみしのひてむやわかかう  
てみなれけるはこみこのうしろめたしとたくへをきたまひけむたましひのしる  
へなめりとそおほさるゝたち花の木のうちもれたるみすいしむめしてはらはせ  
たまふうらやみかほにまつきのをのれおきかへりてさとこほるゝゆきもなに  
たつすゑのとみゆるなとをいとふかゝらすともなたらかなるほどにあひしらは  
む人もかなとみ給御車いつへきかとはまたあけさりければかきのあつかりたつ  
ねいてたれはおきなおいといみしきそいてきたるむすめにやむまこにやはした  
なるおほきさの女のきぬはゆきにあひてすゝけまとひさむしと思へるけしきふ  
かうてあやしきものに火をたゝほのかにいれてそてくゝみにもたりおきなかと  
をえあけやらねはよりてひきたすくるとかたくなゝり御ともの人よりてそあ  
けつる

ふりにけるかしの雪をみるひともおとらすぬらすあさのそてかなわかきものはかたちかくれすとうちすし給ひても花の色にいて、いとさむしとみえつる御をもかけふとおもひいてられてほゝゑまれたまふ頭中将にこれを見せたらむときいかなる事をよそへいはむつねにうかゝひくれはいまみつけれなむとすへなうおほす世のつねなるほどのことなる事なさならはおもひすて、もやみぬへきをさたかにみたまひてのちは中／＼あはれにいみしくてまめやかなるさまにつねにをとつれ給ふるきのかはならぬきぬあやわたなとおい人ものきるへきものゝたくひかのおきなのためまてかみしもおほしやりてたてまつり給ふかやうのまめやか事もはつかしけならぬを心やすくさるかたのうしろみにてはくゝまむとおもほしとりてさまことにさならぬうちとけわさもし給けりかのうつせみのうちとけたりしよひのそめにはいとわろかりしかたちさまなれともてなしにかくされてくちおしうはあらさきかしおとるへきほどの人なりやはけにしなにもよらぬわさなりけり心はせのなたらかにねたけなりしをまけてやみにしかなともゝおりことにはおほしいつとしもくれぬ内のとのゑ所におはしますにたいふの命婦まいれり御けつりくしなどにはけさうたつすちなく心やすきものゝさすかにの給たはふれなとしてつかひならし給へれはめしなき時もきこゆへき事あるおりはまうのほりけりあやしき事の侍をきこえさせさらむもひか／＼しうおもひ給へわつらひてとほゝゑみてきこえやらぬをなにさまの事そわれにはつゝむ事あらしとなむおもふとの給へはいかかはみつからのうれへはかしこくともまつこそはこれはいときこえさせにくゝなむといたうことこめたれはれいのえむなるとにくみ給かの宮より侍る御ふみとてとりいてたりましてこれはとりかくすへき事かはとてとり給ふもむねつふるみちのくにかみのあつこえたるにほひはかりはふかうしめ給へりいとうかきおほせたりうたも

からころも君かこゝろのつらければたもとはかくそそほちつゝのみ心えすうちかたふき給へるにつゝみにころもはこのおもりにこたいなるうちをきてをしいたりこれはいかてかはかたはらいたく思ひ給へさらむされとついたちの御よそひとてわさと侍めるをはしたなうはえかへし侍らすひとりひきこめ侍らむも人の御心たかひ侍へければ御らむせさせてこそはときこゆればひきこめられなむはからかりなましそてまきほさむ人もなき身にいとうれしき心さしにこそはとの給ひてことにものいはれ給はすさてもあさましのくちつきやこれこそはてつからの御事のかきりなめれ侍従こそとりなをすへかめれまたふてのしりとするはかせそなかへきといふかひなくおほす心をつくしてよみいて給つらむ

ほとをおほすにいともしきかたとはこれをもいふへかりけりとほゝゑみて  
み給ふを命婦おもてあかみてみたてまつるいまやういろのえゆるすましくつや  
なうふるめきたるなおしのうらうへひとしうこまやかなるいとなをくしうつ  
まゝそみえたるあさましとおほすにこのふみをひろけなからはしにてならひ  
すさひ給ふをそはめにみれば

なつかしき色ともなしになにゝこのすゑつむ花をそてにふれけむ色こきは  
なとみしかともなとかきけかし給ふ花のとかめをなをあるやうあらむとおもひ  
あはするおりくゝの月かけなをいとおしきものからをかしうおもひなりぬ

くれなるのひと花ころもうすくともひたすらくたすなをしたてすは心くる  
しのよやといいたうなれてひとりこつをよきにはあらねとかうやうのかいな  
てにたにあらましかはとかへすくゝくちをし人のほと心くるしきになのくち  
なむはさすかなりひとひとまいれはとりかくさむやかゝるわさは人のするもの  
にやあらむとうちうめき給ふなにゝこらむせさせつらむわれさへ心なきやうに  
といとはつかしくてやをらおりぬ又の曰うへにさふらへはたいはむ所にさしの  
そき給てくはやきのふのかへり事あやしく心はみすくさるゝとてなけ給へり女  
はうたちなに事ならむとゆかしかるたゝ梅の花の色のことみかさの山のをとめ  
をはすてゝとうたひすさひていて給ひぬるを命婦はいとおかしとおもふ心しら  
ぬ人くゝはなそ御ひとりゑみはととかめあへりあらずさむきしもあさにかいぬ  
りこのめる花のいろあひやみえつらむ御つゝしりうたのいとおしきといへはあ  
なちなる御事かなこのなかにはにほへる花もなかめりさこむの命婦ひこのう  
ねへやましらひつらむなど心もえすいひしろふ御かへりたてまつりたれば宮に  
は女はうつとひてみめてけり

あはぬよをへたつるなかのころもてにかさねていとゝみもしみよとやしろ  
きかみにすてかひ給へるしもそなかゝおかしけなるつこもりの日ゆふつかた  
かの御ころもはこに御れうとて人のたてまつれる御そひとくたりえひそめのを  
りものゝ御そ又やまふきかなにそいろくゝみえて命婦そたてまつりたるありし  
いろあひをわろしとやみたまひけんと思ひしらるれとかれはたくななるのおも  
くゝしかりしをやさりともしきえしとねひ人ともはさたむる御うたもこれよりの  
はことほりきこえてしたゝかにこそあれ御かへりはたゝおかしきかたにこそな  
とくちくゝにいふひめ君もおほろけならてしいて給つるわさなれはものにかき  
つけてをき給へりけりついたちのほとすきてことしおとこたうかあるへければ  
れいの所くゝあそひのゝしり給ふにものさはかしけれとさひしき所のあはれに

をほしやられるはなぬかの日のせちゑはて、夜にいりて御せむよりまかて給ひけるを御とのゐ所にやかてとまり給ぬるやうにてよふかしておはしたりれいのありさまよりはけはひうちそよめきよついたり君もすこしたをやき給へるけしきもてつけたまへりいかにそあらためてひきかへたらむときとそおほしつゝけるゝ日さしいつるほどにやすらひなしていて給ふひむかしのつまとをしあけたれはむかひたるらうのうへもなくあはれたれはひのあしほとなくさしいりてゆきすこしふりたるひかりにいとけさやかにみいれる御なをしなとたてまつるをみいたしてすこしさいいてゝかたはらふし給つるかしらつきこほれいてたるほといとめてたしおひなをりをみいてたらむ時とおほされてかうしひきあげ給へりいとおしかりしものこりにあけもはて給はてけうそくををしよせてうちかけて御ひくきのしとけなきをつくろひ給ふわりなうふるめきたるきやうたいのからくしけかゝけのはこなととりいてたりさすかにおとこの御くさへほの

くあるをされておかしとみ給ふ女の御さうそくけふはよつきたりとみゆるはありしはこの心はをさなからなりけりさもおほしよらすけふあるもむつきてしるきうはきはかりそあやしとおほしけることしたにこゑすこしきかせたまへかしまたるゝものはさしをかれて御けしきのあらたまらむなむゆかしきとの給へはさへつるはるはとからうしてわなゝかしいたりさりやとしへぬるしるしやとうちわらひ給て夢かとそみるとうちすしていて給ふををくりてそひふし給へりくちおほひのそめよりなをかのすゑつむ花いとにほひやかにさしいてたりみくるしのわさやとおほさる二条の院におはしたれはむらさきの君いともうつくしきかたおひにてくれなるはかうなつかしきもありけりとみゆるにむものさくらのほそかなよらかにきなしてなに心もなくてもものし給ふさまいみしうらうたしこたいのをは君の御なこりにてはくろめまたしかりけるをひきつくろはせ給へれはまゆのけさやかになりたるもうつくしうきよらなり心からなとかかううき世をみあつかふらむかく心くるしきものをみてゐたらてとおほしつゝれいのもろともにひいなあそひし給ゑなとかきて色とり給よろつにおかしうすさひちらし給けりわれもかきそへ給ふかみいとなかき女をかき給ひてはなにへにをつけてみ給ふにかたにかきてもみまうきさましたりわか御かけのきやうたいにうつれるかときよらなるをみ給ひててつからこのあかはなをかきつけにほはしてみ給ふにかくよきかほたにさてましれらむはみくるしかるへかりけりひめ君みていみしくわらひ給まろかかくかたはになりなむときいかならむとのたまへはうたてこそあらめとてさもやしみつかむとあやうく思ひ給へり

そらのこひをしてさらにこそしろまねようなきさひわさなりやうちにかに  
の給はむとすらむといとまめやかにの給をいとくおしとおほしてよりてのこ  
ひ給へはへいちうかやうに色とりそへ給なあかゝらむはあえなむとたはふれ給  
さまいとおかしきいもせとみえ給へりひのいとうらゝかなるにいつしかとかす  
みはたれるこすゑとも心のなき中にもむめはけしきはみほゝゑみわたれる  
とりわきてみゆはしかくしのもとのこうはいゝとゝくさく花にて色つきにけり  
くれなるのはなそあやなくうとまるゝ梅のたちえはなつかしけれといてや  
とあいなくうちうめかれ給ふかゝる人くゝのすゑすゑいかなりけむ